新刊紹介

太古の大陸 オーストラリアを旅する オーストラリアの地質
変形A5版　94ページ
1,200円（税抜き）　1999，8，21発行
目で見るオーストラリアの自然　私の地平線
変形B5版　34ページ
2,000円（税抜き）　1999，8，21発行
いずれも山崎哲良著，光陽出版社

南極海域の海底地質調査に4回参加した．どうした巡り合わせか，いずれの航海もウィルクスランド沖とロス海が調査対象となっていた．両海域とも東南極に位置し，オーストラリア，ニュージーランドなどの真南に相当する．船は日本を出てから南に進んで，約2週間でオーストラリア，シドニー港に着く．調査団は飛行機でシドニーまで行き，そこから乗船する．調査航海途中の寄港地はタスマニアのホバートだった．

4回ともそれは変わらなかった．そんな訳で，シドニーもホバートも何度も行ったつもりになっていたが，標記の本で案内されている地質の見どころは，実はあまり知らなかった．航海の途中で寄港地に入った時は，色々な行事があって時間がとれないということもあるが，地質巡検をしようなどという心と時間の余裕がないこと，それと，このような地質巡検の案内書が手近かになかったことも大きな理由である．

著者の山崎さんは東海大学第四高等学校（札幌市）の先生をしている．数年前にオーストラリアを旅してその自然に魅せられ，ついには東海大学派遣の研修生として1年間のオーストラリア研修にでかけた．研修中にオーストラリア内のあちこちを旅行し，その時に見聞きしたオーストラリアを写真と文章とで2冊の本にして紹介されている．

「太古の大陸」では，著者が訪れたオーストラリア各州（残念ながら南オーストラリア州は訪問できなかった）の地質の見どころが，主要都市からのアプローチの解説とともにつづられている．全部で56項目にわたる解説は，普通ならば遊びにしか行かないような海水浴場に関してまで，まじめな地質の説明が書かれている．それは道を間違えて，予定外に訪れてしまった海岸についても同様で，何と，名も知らぬ海岸で釣り人が腰を下ろす岩石についてまで，解説が用意されている．本文は，肩ひじを張らない分かりやすい文章で，著者があたかも読者にその場で案内をしているかのように，現在形でかかれている．そうでないのは，1年間のオーストラリア滞在を終え，帰国するときの飛行機からの眺めをつづった最後の項目，それもその最後の段落だけである．長い旅を終え，かつ長い原稿を書き終え，ほっとした著者がそれまでのリアルタイムによる再現から気分が解き放たれた，そんな様子を感じさせる巻末になっている．思わず「お疲れさまでした」と言いたくなるようである．

「私の地平線」は，上記「太古の大陸」とセットの写真集である．「太古の大陸」にも露頭や風景の写真はたくさん使われているが，版が小さくかつモノクロ写真なので，やはり迫力に乏しい．そのため，いわば「副読本」的にこの写真集が作られている．写真は「太古の大陸」と同じ章だてで配列されているが，解説地全てを網羅しているわけではない．著者が地質屋として興味をもった露頭，人に伝えたい風景にしぼられている．しぼった理由の第一は，実は本の価格に跳ね返ってしまうことかもしれないが．律義にも著者は，「太古の大陸」で使った同じ写真はここではほとんど使っていない．同じ対象でもできる限り別の角度から撮影したものを用意し，かつ解説の必要に応じてトリミングの仕方を変えている．

「太古の大陸」だけでもオーストラリア巡検旅行には充分役に立つが，セットの写真集があるのだから是非併せてご利用いただきたい．とまぁセットの2冊を紹介する時は，たいていこのような「併せて」という言葉が入る．ところが，実は2冊を一緒に開きながら読む（見る）のは結構な手間になる．そのため，写真集を見て，興味をもったところの解説を読む，逆に巡検案内を見て面白そうなところの写真を見る，というのが普通だろう．がしかし，現地へ行ってしまうことが可能なら，「太古の大陸」を手に自分の目で現地を見るというのが一番感動的なはずだ．

（湯浅真人）